

中国ブロッククラブネットワークアクション 2019 開催報告

日 時： [1日目] 令和元年 11月2日(土) 13:00 ~ 17:10
[2日目] 令和元年 11月3日(日) 9:00 ~ 12:20

会 場： IPU・環太平洋大学岡山駅前グローバルキャンパス 4階

内 容： テーマ：「『かける』でひろがる地域スポーツの未来」

[1日目]

1. 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」
2. フリップトーク クラブ×学生 「～地域の未来をひらく「だっぴ」プログラム」
3. 日本スポーツ協会からの情報提供

[2日目]

1. セレクトセミナー (A または B を選択)
A：講演 クラブ×地域 「～地域振興の担い手となる総合型クラブとは～」
B：発表 クラブ×大学 「～若者の力を活かす事業展開～」
2. 講座 クラブ×広報 「～効果的なチラシデザイン～」
3. パネルディスカッション クラブ×防災 「～災害時の総合型クラブ対応～」

参加者：70名

【概要】

総合型地域スポーツクラブ設立から約 20 年を経て、今一度原点に立ち返り、地域におけるクラブの存在意義について再考する場とすることを目的とし、全体テーマは「『かける』でひろがる地域スポーツの未来」とした。個々のプログラムのタイトルは、全体テーマに沿ってすべて「クラブ×○○」とし、学生・地域・大学・広報・防災と幅広い内容の 5 つのプログラムを実施した。

【内容】

[1日目]

共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

経緯・意義の説明：SC 全国ネットワーク 常任幹事 関口 昌和氏

内容説明：(公財) 日本スポーツ協会クラブ育成課 課長 加藤 弘和氏

資料に基づき、総合型クラブ登録・認証制度の説明を行った。

参加者からは、制度を実施することによる効果や、登録料の在り方について質問がでたほか、市町村の行政、体育・スポーツ協会に対する情報提供を求める意見などがだされた。

フリップトーク クラブ×学生 「～地域の未来をひらく「だっぴ」プログラム～」

講師：NPO法人だっぴ 事務局長 森分 志学氏

「一人ひとりの若者が、人とのつながりの中で、自分らしく生きられる社会の実現」をビジョンに掲げ、岡山県内を中心に活動されている、NPO法人だっぴに「フリップトーク」を実施していただいた。このプログラムには環太平洋大学の学生 11 名にも参加してもらい、「クラブ×学生」として、スポーツについて意見を交わした。

5 人 1 グループに分け、スケッチブックを使用し、講師から出されたお題に答えていく形で進行され、自己紹介から昨日の晩ご飯、過去最強の思い出など、軽いお題でコミュニケーションを図ったあと、「あなたにとってスポーツとは？」や「あなたが望む、地域スポーツの未来」など奥深い内容のお題に進んでいった。前半・後半とメンバーを変えて実施したが、終始、話がつきること無く、時折、笑い声も聞こえ、和やかな雰囲気で行われた。若い学生のスポーツに対する考え、他クラブ関係者の考えなどを知り、意見交換することで、今回の開催目的でもある、「原点に立ち返る」機会となった。



[2 日目]

セレクトセミナー

A：講演 クラブ×地域 「～地域振興の担い手となる総合型クラブとは～」

講師：岡山大学教育学研究科 准教授 高岡敦史氏

大きく 3 つの内容に分けて、地域振興における総合型クラブの役割について講演を行っていただいた。

- ①「目的」としての地域振興とは？
 - ・ 振興される前の地域、振興された後の地域
 - ・ 地域課題の対話と共有、解決に向けた連携・協働、未来の共創
- ②総合型クラブの「方法」としての捉え直し
 - ・ 総合型クラブは目的ではない
 - ・ 総合型クラブならではの機能とは？
- ③総合型クラブにしかできない地域振興とは？



自クラブのことを考えながら聴講する講演であり、同時に問題に対しどうすればいいのかのヒントも与えてくれる内容だった。

地域振興が「目的」で、クラブづくりはそのための「方法」である。との内容は、地域におけるクラブの存在意義について再考する機会となった。

B：発表 クラブ×大学 「～若者の力を活かす事業展開～」

進行：環太平洋大学体育学部体育学科 講師 常浦 光希氏

学生発表者：環太平洋大学体育学科 3回生 岩本 理子氏

〃 教育経営学科 3回生 安藤 桜氏

クラブ発表者：きよねスポーツくらぶ 小野 耕作氏

しらうめスポーツクラブ 松岡 祥和氏

環太平洋大学と岡山県内クラブの連携事業について次のとおり事例発表を行っていただいた。



○学生事例発表

- ・きよねスポーツくらぶとの連携事業「こどもチャレンジウォーク」
- ・しらうめスポーツクラブとの連携事業「サマーキャンプ in しらうめ」

学生発表者からは、クラブとの連携事業について企画から事業実施までの流れについて発表があり、学内での会議、クラブとの会議、こだわった点・気をつけた点などの学生視点の事業展開について詳しく発表があった。学生と共に事業を行ったクラブ側からは、学生との連携事業でクラブとして大人としてどう関わっていったかなどの発表があった。例えば、連携事業をはじめた当初は、細々した内容まで、学生と一緒に実施をしていたが、回数を重ねる毎に、「学生を信頼し任せるところは任せ口出しは極力しない。」といったスタンスができあがっているという発表があった。

質疑応答では、学生とクラブ発表者が相談しながら質疑に回答する場面が多く、学生とクラブスタッフ間に良好な関係が築かれていることが分かるセミナーだった。

講座 クラブ×広報 「～効果的なチラシデザイン～」

講師：環太平洋大学 湯口理英氏

今回の中国ブロックのチラシ（右下参照）を作成いただいた湯口氏に、チラシ作成のノウハウを分かりやすく指導していただいた。チラシ作成の第1段階、「ターゲットを絞る」では、ペルソナマーケティングシートの説明を受けた後、実際に参加者に記入をってもらう時間を設けた。その後は、チラシを作る際のポイント、色の持つ効果、フォントが与える影響など、すぐに活用できる内容を分かりやすく指導いただいた。

また、参加クラブのチラシを教材に、良い点・改善点などを指導いただき、同じ内容で湯口氏が作成したチラシデザインとの比較なども行っていただいた。

参加者からは、白黒印刷の際の作成ポイントなどの質問があがり、実際にカラーを白黒に変更し、作成のポイントなどを説明していただいた。



中国ブロッククラブネットワークアクション2019
**【かける】でひろがる
地域スポーツの未来**
とき：2019.11.29-30
ところ：IPU・環太平洋大学岡山駅前グローバルキャンパス
参加費：3,000円
（学生・教職員は無料）

11.29 SAT	11.30 SUN
13:15～14:15 総合型クラブ情報・認証制度の 発展に向けた情報共有 講師：湯口理英氏	09:00～09:50 開会式 開会式後の懇話会 総合型クラブとは 講師：湯口理英氏
14:15～16:35 地域の未来をむかへよう！ プログラム 講師：湯口理英氏	10:00～10:50 質疑応答 効果的なチラシデザイン 講師：湯口理英氏
17:00～18:00 懇話会 講師：湯口理英氏	11:00～12:10 質疑応答 効果的なチラシデザイン 講師：湯口理英氏

講師：湯口理英氏
主催：スポーツデザイン
担当：Caribbean

パネルディスカッション クラブ×防災 「～災害時の総合型クラブ対応～」

コーディネーター：川崎医療福祉大学 医療技術学部健康体育学科 教授 米谷正造氏

パネリスト：筆の里スポーツクラブ（広島県）大野 都弥子氏

たけのこスポーツ広場（岡山県）土屋 瞳 氏

NPO 法人総社スポーツ&ヒューマンねっとわーく（岡山県）村井 聡紀氏

昨年7月の西日本豪雨被災で、避難場所となったクラブ、被災したクラブ、支援活動をしたクラブに発表をいただいた。

○避難場所となったクラブ

筆の里スポーツクラブの大野氏より、避難場所となった体育館の写真とともに豪雨災害後のクラブ活動の状況や他クラブからの支援内容についてお話いただいた。

○被災したクラブ

たけのこスポーツ広場の土屋氏より、倉敷市真備町の豪雨被害、決壊のあった小田川河川敷が地道な復旧活動によりマレットゴルフが実施できるまでになったことなどお話しいただいた。

○支援活動をしたクラブ

NPO 法人総社スポーツ&ヒューマンねっとわーくの村井氏より、岡山県立大学の学生を中心に被災地支援活動を実施した内容とクラブが大切にしている「クラブと地域をつなぐネットワークの重要性」などをお話いただいた。



災害の恐ろしさ防災の必要性はもちろんだが、県内外を問わず総合型地域スポーツクラブ間の繋がりの重要性、地域における他団体との繋がりの重要性を改めて考える場となった。

【まとめ】

年に一度中国ブロックで開催されるこの研修会は大変有意義の時間となっている。今年は岡山県の開催となったが、開催県の岡山県が積極的にプログラムを構成していただき、岡山県独自の取り組み、大学との連携を大きな柱としてこの研修会を進めて頂いた。これは、今までになく画期的な取り組みで、大学という財をいかに、クラブへ持ち込むか、また学生や大学の持っている専門性をいかにクラブに引き込むかの実践的な事例を聞くことで参加者は大変満足してこの研修を終えたのではないだろうか。一方ではコミュニケーションツールとしてフリップトークを活用した斬新的な手法、昨今発生している災害時のクラブ対応や被災されたクラブの報告も、今後他人事ではない現状を参加者一同が感じる事の出来る貴重なディスカッションも実施できた。

私の所見としては参加クラブも少しずつではあるが変わり参加者も若くなってきたように感じた。

登録・認証制度の共通プログラムも反対的な疑問点ではなく、登録・認証制度を進める上での疑問点の質疑が出たのではないかと感じている。しかしながら、参加クラブ数がまだまだ少なく、来年は今回参加したクラブが、1クラブは誘い合い参加しようと、意識統一をして今回のネットワークアクションを終了した。

(中国ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 関口 昌和)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。